

特別企画

50歳からの病氣と治療 Vol.1

補綴歯科治療

取材/秋山晴康 撮影/工藤ケイイチ

50歳からの氣になる病氣と治療を取り上げる。第1回は、日本補綴歯科学会の古谷野潔理事長と小宮山彌太郎副理事長に対談していただき、歯や顎が欠けたり失われたりしたときに、かぶせ物や入れ歯、インプラントなどの人工物で補う「補綴歯科治療」をクローズアップする。

健康寿命に貢献する

補綴歯科治療

古谷野 歯を不幸にして失われた方が、入れ歯やブリッジといった人工の物で失われた部分を補って、同時に機能も回復するという治療を補綴歯科治療といいます。さし歯やインプラントも、補綴歯科治療に入ります。

多くのケースの最終処置は補綴処置なんだよ」という言葉が心にひっかかったからです。機能の回復、審美性、それから患者さんのQOL(生活の質)の維持など、いろいろな観点から考えると、なくなったものを補う補綴治療は有用だと思っています。

古谷野 口を使う機能は、しゃべる、キスをする、なめる、ストローで吸うなど、多岐にわたりますが、それを歯が支えています。大事な歯をなくしたり、歯周病になったとき、最終的にどのようにしていくかという設計図を描くのは補綴しかないと思っています。

小宮山 私どもが考えなければいけないのは、歯を長持ちさせ、その状態を長く維持できるようにするということです。適切な設計をして、適切な補綴装置を入れることで、顎の機能、組織を補填できます。

古谷野 人間の平均寿命は延びましたが、健康寿命との間にはまだ7〜8

小宮山 補綴は一般の人には分かりにくく、なかなか読めないかもしれませんが、字のごとく補って、繕い綴るという意味です。

古谷野 歌舞伎で台本をいろいろ改訂することを補綴というそうです。その場合、「ほてい」と読むそうです。学生時代にいろいろな歯科の講義を受けました。ほとんどの分野は論理的に分か

年のギャップがあります。口から食べ物を摂るのは、健康への第一歩。それをしつかり支え、QOLを維持しながら、長く健康寿命を保つために貢献できるのが補綴歯科治療です。

いい歯医者選びの決め手は？

小宮山 補綴は、材料や生理学的なことに加えて患者さんの心理を考えなければなりません。患者さんが何を望んでいるか、できるだけ負担が少ないものを提供できるか、機能やQOLが長く維持ができるか。それらを提供できる知識や力があるかどうかは歯科医師に求められます。

古谷野 インフォームド・コンセントとか、セカンドオピニオンといいます。何か疑問に思われたら、勇気を出して尋ねられたらいいでしょう。今の時代、それらを拒否する歯科医師であれば、別のところに行ったほうがいい

古谷野 潔 先生

日本補綴歯科学会理事長
九州大学歯学部教授

こやの・きよし

1955年、福岡県生まれ。83年、九州大学歯学部卒業。91年、文部省在外研究員、アメリカ合衆国 UCLA visiting associate professor。97年、九州大学歯学部教授。2001年、同大学歯学部附属病院長を経て現職。九州大学大学院歯学研究院インプラント・義歯補綴学分野教授。日本顎関節学会理事、日本口腔インプラント学会理事、日本歯学会議員、日本歯科医学会理事



といえます。

小宮山 言い換えますと、セカンドオピニオン、サードオピニオンを摂るのはなく、「構いませんよ」というところは安心かもしれません。

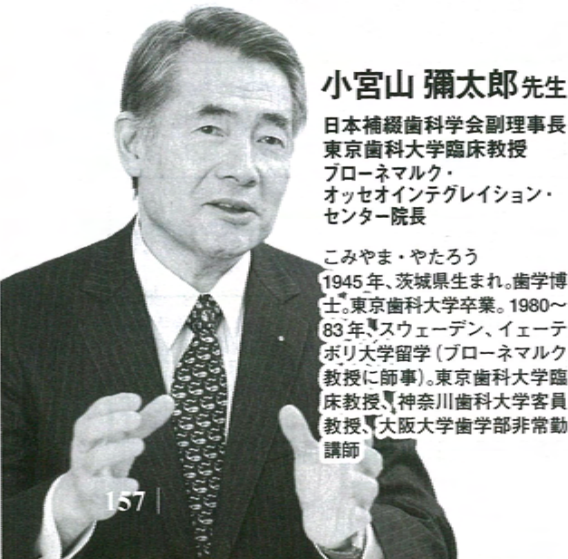
古谷野 補綴治療では、たとえば入れ歯を作ったりしても、そこで治療が終わっていません。その後、変化があれば、すぐに対応していかないとけないので、できれば長く付き合える歯医

小宮山 彌太郎 先生

日本補綴歯科学会副理事長
東京歯科大学臨床教授
ブローネマルク・
オッセointegration・
センター院長

こみやま・やたろう

1945年、茨城県生まれ。歯学博士。東京歯科大学卒業。1980〜83年、スウェーデン、イエーテボリ大学留学(ブローネマルク教授に師事)。東京歯科大学臨床教授、神奈川歯科大学客員教授、大阪大学歯学部非常勤講師



者さんがいいです。

小宮山 患者さんも医師も、同じ土俵の上で関係ができればいいですね。

日本補綴歯科学会認定の 補綴歯科専門医

古谷野 同じ補綴治療を受けた複数の患者さんの意見を聞くのもいいと思います。

小宮山 一人だけというのは危険ですね。その患者さんが何を求めていたかで全く違いますから。何人かに聞いてみたほうがいいでしょう。それから、歯科技工士などの関係者の知り合いがいれば、その人に聞くのも確実な情報を得られるかもしれません。実際の補綴装置を作る歯科技工士さんが診療に立ち会ってくれるとか、連携がとれているところは安心だと思います。

古谷野 日本補綴歯科学会では、専門医制度を設けていますが、専門医というのは魅力の一つですね。補綴の分

見た目やかみ合わせを 人工の歯で補う補綴歯科治療

【クラウン】 歯の口の中に出ている部分(歯冠)がむし歯などで侵された場合に、金属やセラミックなどで人工の歯冠をつくる治療(全歯、さし歯など)。

【ブリッジ】 むし歯などで歯を失った場合、両脇の歯を土台にして、人工の歯を橋のように架ける治療。

【部分入れ歯】 むし歯、歯周病や事故などで歯や歯を支える骨の一部がなくなった場合、そのなくなったところを補う入れ歯による治療。

【総入れ歯】 上顎または下顎のすべての歯を失った方(無歯顎者)のための入れ歯による治療。

【インプラント】 歯がなくなったところの骨に、主にチタンなどの金属の人工の歯根を埋め込み、その上に人工の歯を作る治療。

【ホワイトニング】 薬や病気、年をとるなどによって着色・変色してしまった歯を、輝く白い歯に戻す治療。

【顎義歯】 けがや炎症、あるいは腫瘍の切除手術などが原因で、口の中や顎に残った傷(欠損)を人工的に補い、噛む、話すなどの機能の障害を改善する治療。

野を専門に勉強し、診療についても研修を積んでいる歯科医師です。治療の経験と、それに必要な高い知識を有しています。現在、当学会の会員数は約6500人。補綴歯科専門医は1145人います。専門医認定研修施設は98カ所あります。日本補綴歯科学会のホームページがあり、専門医の所在もそこで分かるので、上手に利用していただけたらと思います。



フローネマルク・オッセインテグレーション・センターにて対談